

区連会 資料 4-2

令和 7 年 10 月 17 日

各自治会町内会 会長 様

旭保護司会 会長 黒須 正明

「保護司会だより旭」発行と送付について

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

旭保護司会につきまして、日頃より並々ならぬご理解とご協力を頂き誠にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

この度、保護司会の活動状況などの一環をお知らせいたしたく「保護司会だより旭第 45 号」を発行しましたのでご送付申し上げます。

何卒、ご高覧頂きますようお願い申し上げます。

1 送付部数 : 各 1 部



社会を明るくする運動 二俣川駅にて

保護司会だより 旭

発行所 旭保護司会広報部
発行責任者 会長 小松 康夫
事務局 旭区社会福祉協議会
旭区鶴ヶ峰 1-6-35 ばれっと旭
印刷所 小松印刷株式会社



「旭区内の犯罪情勢について」

旭警察署長 小林 三季

旭保護司会の皆様におかれましては、日々更生保護活動に御尽力され、敬意を表するとともに、警察活動各般にわたる御理解と御協力に対し、厚く御礼申し上げます。

さて、旭区内の上半期の犯罪発生状況ですが、四八五件と前年同期比で五二一件増加し、自動車盗や万引きが増加しています。喫緊の課題である特殊詐欺については、認知件数が二四件、被害額が約一億三〇〇万円に達し、件数は減少したものの、被害額が増加しています。最近では、旧来からのオレオレ詐欺に加え、警察官を騙り「あなたに逮捕状が出ている」などとビデオ通話で逮捕状を示し、資金洗浄のためと騙し、犯人グループが指定した口座にお金を振り込ませる手口、SNSを利用した恋愛感情を抱かせた上での投資や、架空の投資話を持ちかけたたりする手口も増加しています。

また、非行少年の状況は、犯罪少年の検挙が四四件、不良行為少年の補導が一〇一〇件となり、前年同期比では検挙数が減少した一方で、補導数は増加しました。「三つ心、六つ鉄、九つ言葉、十二文、十五理」という古い「教え」がありますが、少年たちにとって最も身近かつ重要な家庭内において、こうした正しい「教え」の機会が充分に与えられていない状況が散見されることに危機感を感じています。

犯罪の抑止と検挙は、治安を担う警察の責務ですが、過ちを繰り返さないよう更生保護活動を密に連携し、地域住民の皆様が安全で安心して暮らせる地域社会の実現のため取り組んで参りたいと思います。引き続き、御理解、御協力をお願い申し上げます。

結びに、旭保護司会の益々の御発展と皆様の御健勝、御多幸を祈念いたします。



新任保護司 挨拶



三村 力

この夏、保護司として初めての担当も受けることになりました。信じることを忘れずに、向き合っていきたいと思います。

退任保護司紹介 (敬称略)

(任期満了)
令和七年三月三十一日付

西山 東郷

(委嘱日平成二十五年四月二日)
退任後は畑で野菜を作ったり、フードバンクの活動をしたりとのことです。
当保護司会に多大なご尽力を頂き誠にありがとうございました。

旭区の主任官署長の挨拶



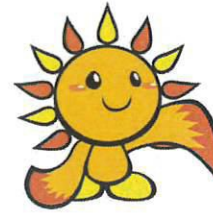
旭区担当監督官

日高 直哉

旭保護司会の保護司とその御家族の皆様方には、平素から更生保護の活動に御協力いただき誠にありがとうございます。私は担当に就任しました日高と申します。どうぞよろしくお願い致します。

旭区では保護司と一緒に更生保護女性会が活動され、区役所や社会福祉協議会職員のサポートを受けながら更生保護に携わる方々が密に連携されています。社会を明るくする運動では、自治会や地域の皆様の御協力のもとに活動されています。この事は保護司会の皆様が長年にわたり地道な活動を続けられた賜物である心から感謝申し上げます。

現在の旭区は、少年で保護観察を受けている人が多い印象です。面接時に、保護司は、本人に必要なことは何か、本人が求めていることは何かに関心を向け、一生懸命に話を聴かれています。少年は、個別に話を聴くと落ち着いて話す人がほとんどで、素直な印象を受けることが多いです。誰かと一緒にいる時などその人特有の非行に



つながりやすい状況があり、その事に本人が気づき、危ない場面での様に思い直し行動するの、本人と保護司が共に考え、本人が自分自身で答えを出し実践できるように導いています。

ただ、私もそうですが、面接は、時に強いストレスにさらされ、思い悩むことがあります。その時私は同僚に助けを求め相談していますので、保護司の皆様方も安心して活動いただけるように取り組んで参ります。保護司さん御自身が心身共に健康でありますことを祈念いたします。

過ちを犯してしまった人の社会復帰と再犯防止には、何より御本人の自覚と努力が必要ですが、地域の方々と学校や職場など関係機関の皆様との御理解と御支援が欠かせません。皆様から引き続き更生保護の活動に御協力を賜りますようお願い申し上げます。

本年度役員紹介

四月十八日(金)、本年度保護司会総会が開催され、新たに会長並びに役員が承認されました。

新役員・理事は左記の通り

会長 黒須正明
副会長 石村利幸・武部由美子
常務理事 杉山良美・土岐典子
理事 白濱泰子・伊佐地正嗣
漆原恵理子・澤野研
寺田崇裕
監事 伊藤喜代子
向井秀人

編集後記

「暑い言葉ですべてを表す夏は終わりましたが、季節は進んで冬を迎えることは出来るのでしょうか? 最近は四季ではなく、季とあらかずともあるようです。わが家の菜園も、暑さと水不足で散々な結果となりました。人だけでなく野菜も熱中症にかかったようでした。

これからは暑さに強い野菜を選択しなければと思いをめぐらせています。異常気象から「異常」の二文字が取れ、暑さが「日常」になる日が近いのかと思う今日この頃です。

(杉山 記)

この度は、名誉ある義章を頂きましたことを大変嬉しく光栄なことと思っております。また皆様方より丁寧なるお祝いのお言葉を頂戴し、感謝し心からお礼申し上げます。これも周りの皆様方のご支援とご協力の賜物と思いの引き締まる思いです。

思えば長きにわたり保護司として活動を続けられたのも先輩や良き仲間、ご指導、ご協力によるものと大いにあります。施設見学会、社明と多くの行事がすべて楽しかったと思えたことがとても幸せに感じます。観察所、行政、OB会、そして保護司の仲間、皆様に感謝の言葉しかありません。ありがとうございました。

会長退任に思ひつゝ

今までに経験のないコロナ禍で難しい会の運営を強いられ、会員には不便を掛けたことをお詫びします。その中で観察所の指導、助言の下、いろいろな対策と対応で乗り越えてきました。コロナの終息に向かって以前のように活動し



瑞宝双光章の叙勲にあたって

前会長 小松 康夫

ようとしたのですが、元には戻りません。社会全体の意識が変わってしまった。今後はその価値観に合わせた活動が必要だと思えます。

黒須新会長の下、旭保護司会が発展することが願っています。また微力ですが全面的に協力するつもりです。役員、理事の皆様には大変お世話になりました。感謝の気持ちでいっぱい입니다。ありがとうございました。



私たち旭区薬剤師会は、今年も保護司会が推進する「社会を明るくする運動」に賛同し、参加させて頂きました。犯罪や非行を防ぎ、誰もが安心して暮らせる地域社会の実現を目指すこの活動は、私たち薬剤師が日々取り組んでいる薬物乱用防止や健康支援の役割と深くつながっています。

特に近年、若年層を中心に広がっている医薬品の過剰摂取（オパードーズ）は、見過ごせない社会問題となっています。

そこで、神奈川県薬剤師会では、薬の正しい使い方とリスクを分かりやすく伝える動画を公式YouTubeチャンネルで公開しています。身近に潜む危険でありながら十分に理解されていない医薬品の過剰摂取ですが、正しい知識でリスクを回避してほしいです。

動画では、勉強のためにカフェイン入りドリンクを常用する子どもが次第にOTC医薬品へと手を



社会を明るくする運動
希望ヶ丘駅前にて

伸ばしていく様子を描き、医薬品の用法・用量を守る大切さをアニメーションで訴えています。薬剤師や相談窓口へのアクセスも紹介し、「不安を話せる環境」が子どもたちを守る鍵であることが強調されています。ぜひ、一度ご視聴ください。

私たち薬剤師会は、地域に根ざした活動を通じて、正しい情報の発信と相談のしやすい体制づくりを進めながら、保護司会の皆さまと連携し、安全で健やかな地域社会の実現に引き続き貢献してまいります。



横浜市旭区薬剤師会 副会長 松原 幸三

薬剤師として地域の安全を支えるために

新会長からの三つの提案



会長 黒須 正明

今度、会長の大任を仰せつかった黒須です。皆様の力添えがないと何も出来ませんのでよろしくお願ひします。新会長として若干の抱負を述べます。

昨年滋賀県大津市でベテランの保護司の方が自宅面接中に殺害されたというショッキングな事件がありました。これをきっかけに政府も保護司制度を見直す動きが出てきました。

私たち旭保護司会もこの令和という時代と地域の現実にあつた形で活動が求められます。

そこで皆さんに提案したい事が三つあります。

一つは自宅以外での面接です。幸い横浜ではケアプラザや地区センター、コミュニティハウスという公共の場が無料で利用できます。ぜひ利用してください。

でもこれは身の安全を守る事が第一理由ではありません。自宅面接で保護司がかかえらる事で、内向きになつてしまいがちな保護司の存在を、地域に理解と連携を進める第一歩になると思うからです。

私自身、コミュニティハウスを利用することで職員さんに保護司の活動を知ってもらいました。また、保護司の担い手を増やすことも二つめは地域活動への参加です。

犯罪全体が減る中で再び罪を犯す再犯者が増えていきます。再犯防止はますます重要な課題となつていきます。

先般福島県務所で開催研修を受け、受刑者の中で高齢者や知的発達障害を持つ人の増加を目の当たりにしました。認知症高齢者対応やコミュニケーションが苦手、薬物依存傾向のある方など福祉的支援が必要と考えます。地域福祉関係者とのネットワークや地域活動へ参加して、一緒に取り組む時だと思ひます。

三つめは楽しい保護司会づくりです。個別の保護観察と保護司会としての更生保護活動は保護司活動の車の両輪です。デジタルを活用した情報共有・効率化・負担軽減やサポートセンターの機能強化などを進めたいと思ひます。

保護司会活動は学びあひの場で選ばれた三十数名しかない仲間です。仕事でも家庭でもない第三の場として集まっています。保護司一人ひとりが繋がります。私たちの活動は大きな力となります。親睦を深めながら楽しい保護司会にしていきたいと思ひます。新役員一同、皆様と共に二年間運営を進めてまいります。どうぞよろしくお願ひします。



横浜市立今宿中学校 校長 片野 嘉昭

合同研修会に参加して

このたびは、旭保護司会と旭区中学校生徒指導専任教諭協議会との合同研修会に参加する機会をいただき、誠にありがとうございました。

校長として日々子どもたちと向き合う中で、地域に根ざして活動される保護司の皆さまのお話を直接伺うことができ、大変有意義な時間となりました。

非行や問題行動の背景には、家庭環境や交友関係、自己肯定感の低さなど、様々な要因が複雑に絡み合っているということ、改めて学ぶ機会となりました。学校現場においても、表面的な行動にとらわれるのではなく、子ども一人ひとりの内面に寄り添い、安心して自分を表現できる場を提供することが重要であると感ずいています。

また、「地域全体で子どもを育てる」という視点は学校にとっても欠かせない視点です。学校は決して閉じられた場ではなく、地域社会の一部として存在しています。保護司の皆さまの長年にわたるご



生徒指導専任教諭と合同研修会

尽力が、子どもたちの更生と成長を支える大きな力となっていることを、改めて実感いたしました。

今後も学校と地域が手を取り合い、子どもたちの可能性を信じ、共に育んでいくことのできる関係性を築いてまいりたいと思ひます。末筆ながら、今後とも皆さまのご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。